

①大学や町の様子

東国大学は、ソウル中心部に位置する私立の仏教大学です。文系・理系の一般的な学部の他に仏教学部があり、幅広い年齢層の僧侶の方々が学問として仏教を学びに来られています。そのほか、映像や演劇・ダンスに関わる分野の専攻もあり、東国大学での学生の学びの範囲は多岐にわたっていると言えるでしょう。また現在の K-POP 界や、映画やドラマで大活躍している人材を輩出した大学としても有名です。

南山(ナムサン)タワーからも近いため、明洞(ミョンドン)や忠武路(チュンムロ)からのアクセスは南山の坂道を上がって行くというイメージで、斜面に建てられている大学キャンパス内の移動はエレベーターが必須です。大学周辺に、いわゆる学生街のような若者中心の賑やかな雰囲気はなく、国立劇場や迎賓館・大型ホテルなど、格式ある静かで落ち着いた雰囲気が特徴的で、在来型の市場やマートなど昔ながらの様相が残っており、私にとっては大変過ごしやすい街でした。

②授業

天理大学の先生方と相談の上、大学の語学堂には行かず、学部での授業のみを履修しました。単位の振替のことも少し意識しながら、興味がある歴史・文化・作文・古典小説等の授業を選択しました。

外国人を主体とした授業では、中国を始め、イタリア・フランス・モンゴル・ベトナムなど、多国籍の学生たちと共に韓国語での授業を受けるという人生初の体験を通して、多くの留学生たちと交流を持つことができました。通常の授業では、課題として何回か討論があり、韓国の現役大学生の思考に触れることができ、大変勉強になりました。4 人一組の研究発表では、韓国人学生たちとチームを組み、どのような方向性で、どのような主題に取り組むのか、また役割分担などについて細かく話し合い、そこから韓国語での文章及びパワーポイント作成・発表という工程を体験できたことに大きな成果を感じました。試験については、ほとんど論述式だったため、自身の授業のノートが多変役立ちました。

③生活や寮について

大学の最寄りの「東大入口駅」がある奨忠洞(jangchung-dong)という地域にアパートを借り生活をしていました。大学と自宅の間にコンビニもあり、明洞・忠武路・東大門へは徒歩圏内(30 分以内)だったため、日々の食材や日用品・衣類等の買い出しなどに関して不便はありませんでした。学習環境確保と光熱費節約のために、頻繁に大学の図書館及び学内のフリースペースを利用し、課題が多いときや試験前などは、夜間の学食を利用していました。その日の授業の振り返りはできるだけその日のうちにノート整理することを心掛け、週末は、基本的には予習・復習の時間にあて、余裕のあるときは友人と会い、カフェやショッピング・街の散策なども楽しみました。以前、天理大学に交換留学や語学研修で来ていた韓国

人学生たちとも交流を深め、楽しい時間を過ごすことができました。また、兼ねてからの韓国人の友人たちに会うためソウル市以外の地域を訪ね、浦項(ポハン)や釜山(プサン)など、国内旅行も堪能しました。

④留学を終えて

社会人から大学生になった私にとって、長年「学業」から遠ざかっていたという大きなハンデがあることは言うまでもなく、1年半、大学生として、天理大学で学んだからこそ、韓国での学生としての意識や習慣にそのままシフトすることができたのは間違いありません。19歳の頃、一度は諦めた韓国留学が現実のものとなり、韓国ソウルで過ごした時間は、人生の中でもかけがえのない6ヶ月となりました。

コミュニケーション能力の重要性についても実感しました。その国の言語の文法が理解できていたとしても、コミュニケーション能力がなければ、いつまでたっても友達はできません。私が受講していた授業で、他の学生たちとは明らか年代が違うのにも関わらず、私という日本人に関心を持ってくれた一人のモンゴル人留学生がいました。彼は、韓国のお寺で修行をしながら、仏教哲学を学ぶ僧侶でした。生まれ育った国も環境も言語も何もかもが違う私たちが、「おしゃべり好き」という共通点だけで、仲良くなるのにはそう時間はかかりませんでした。友人を作るという上で、お互い韓国語でコミュニケーションを取ることに積極的であったことは大きな助けになりました。学部生である彼は、私より1学期先に大学に入学していたため、学食や印刷プリンターの使い方・自習できるスペース・レポートの提出方法など、学生として必要なことを教えてくれました。この友人にどれだけ助けられたかわかりません。彼がいなければ、私の留学生活は全く別ものになっていたでしょう。

韓国での日常生活・学びを通して一番感じたことは、精神面・語学面において、私自身がこれで満足せずに、もっと上を目指すべきだということです。それが、後の何らかの教育機関での学業や研究なのか、仕事に繋がることなのかはまだ見えていませんが、まずは、残りの天理大学での2年間で、教員免許取得のため能力向上と、より高い教養を身につけることに留意し、学業に時間を費やせることへの感謝の気持ちを再確認した上で、一日一日を大切に過ごし、自身の将来の更なる明確な目標に繋がたいと考えます。

⑤これから留学する学生へのアドバイス

留学を通して、その国での語学学習や遣り甲斐・新たな目標を見つけることはもちろんですが、毎日の生活が常に誰かに助けられ支えられているということ・(学業成就のために)健康に留意すること・外国での暮らしが常にトラブルと隣り合わせであるが故に、日々緊張感をもって生活しなければならない…など、日本での生活では考えもしないことを新たに実感できる「人生の学び」のチャンスです。できる限り予測・準備をし、毎日をどれだけ大切に積極的に過ごすかによって、確実に留学生活の濃度は変わります。留学することに対しての目的・目標意識が明確であればあるほど、成果が大きいと思います。